

勝林寺々報

カレンダー今月のことば

仏陀は

世の移りゆく相を知つて

濁りなき境地を語る

いま勝林寺の門前の掲示板には次のことが書かれています。

人をさばいて悪く言う人は

大抵同じ欠点をもつてゐる

「ほんとにその通りです。人ごとではありません」何度も何度もなづいておられたお年寄りがありました。人のことばかり批判して、一向自分の私は、笑つてごまかせ自分の失敗。

語るべき何ものもない私、主張すべき何ものもない私と知つたとき、私は「聞く」しかりようはない。

愚かな人は語り、
かしこい人は聞く。

と、善いつもり、よくなるつもりのなかで、いつそう深いいつわりとごまかしのくらしにめり込んで行く私の生きざまをなげかれました。

内に虚偽をいだけはなり。
外に賢善精進のすがたを現ぜされ。

わたしたちの親鸞さまは
子供は殺される。
悪人でない人の行なう正義が戦争のたね。

自分の罪業を見ない「善人」ほど恐ろしいものはありません。

聞く身になるには

てこそ

(勝林寺の掲示板に折り折りに書かしてたゞいた私の思いです)

か わ い ・ 瓦

勝林寺の本堂もおかげで立派に葺き上がりました。

瓦の話をみてみましょう。

日本の本来の屋根はわら葺・草葺・檜皮葺でした。そこへ瓦葺の屋根があらわれてきたのは、時代と言うと五九三年ごろ、日本ではじめて寺(法興寺)が建てられた時です。

それ以前にも日本には「上りがま」の技術は大陸から伝えられていていたのですが、瓦はまだ焼かれていませんでした。

寺を朝鮮や中国のように建てるには瓦で屋根を葺きたかったと見えて、朝鮮の百濟(クタラ)会に広くゆきわたつたわけではありません。奈良時代から平安時代にかけて、寺院の他に宮廷や一部の役所などにはもちいられましたが、決して一般化はしませんでした。

しかし、聞くことは語ることより格段むずかしい。今日こそ自分を出さずに聞きとつてやろうと構えていても、五分孫の話を聞いていると、もう矢も盾たまらずやつぱり自分が出てしまします。

主に寺院を中心に、長い時代、瓦は造り続けられ葺き続けてきました。瓦は仏教とともに伝えられ発展してまいりました。

カワラといふことはも実は、カバラというサンスクリット(インドの古いことば)がそのまま仏教といつよに日本に伝えられたものです。

また、日本の屋根の一つの大重要なポイントである鬼瓦(正しくは鬼面瓦)も、中国の伝統ではなくて、仏教の鬼(それはむしろ仏法を守護してくれる親しいものとして)として、とくに鎌倉時代以後、日本独特の芸術品を生んで行きました。

(カバラとは「よろい」の意味です。)



完成間近な勝林寺大屋根

このように瓦は、全く寺院・仏教とのかかわりのなかで(しかもこのように日本独特の瓦に)焼きつけられ葺きつけられたのです。

瓦葺の屋根が、一般民家に使われ出したのは、ずっと後の江戸時代からです。

一六五七年、いわゆる明暦の江戸大火を機に、しかし江戸末期以後、ようやく地方一般にも普及はじめたものの、寺院以外の民家の瓦屋根は依然わら葺ひはだ葺の姿を残しております。

すなわち、現在も、屋根には反り(そり)と起り(むくり)の型式がありますが、急傾斜をもち屋根のすそが上を向いてハネでいる反り型式は寺院の屋根が伝統として継承しているのに對して、

同じ瓦屋根でも起りは、角度がゆるやかで、ほぼ三角形のかたちをしております。そしてわずかにこれが「耳順」といわれる年寄りのね

語るより先ず妻の心を聞こう。主張するより先ず子供の心を聞いていこう。

この長い伝統の末に、勝林寺の大屋根もつらな

れました。こののだと思うと、感慨ひとしおです。

ご門徒各位、有縁の同行、ことに誠実な施工者に感謝します。

昭和57年6月1日

お墓の二と

四十九日がすめば、中陰壇はとりはらいます。ま
た。お仏壇のお莊嚴も平常通りにもどします。ま
遺骨はその後適当な時期にお墓に納めます。

なお、忌明の法要は通常四十九日を日安にして
とめますが、先にも申しましたように、どのご法要
でも、そのことをご縁として「開法」するといふこと
が目的のですから、当り日から多少はずれても
なるべく多くの人ご集まる開法に都合のよい日を
寺と相談して決めるべきです。その場合、忌明が三
月ごしになると悪いなどといふのは、全く思かな迷
信ですから気にしてはなりません。

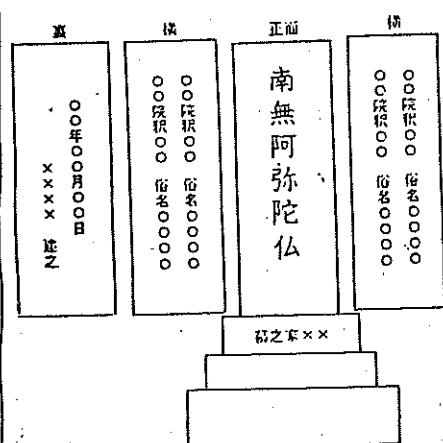
さて、墓の話にうつります。
まず、墓とは何かということをしつかりと心得て
おかなければなりません。世に行なわれている墓には二つの種類があります。

一つは、「死人・死靈を閉じこめておく場所」と
しての墓です。これは、今から千年も昔の人たちが考
えていた墓です。その時代の人たちは死者や死靈を「
穢」(けがれ)としておそれました。ですからそん
な死などいう穢れは自分や自分は近辺から早くはら
いのけなければなりません。「お祓(おはらい)」
をしたり「禊(みそぎ)」をして死の穢れを追い出
そうと考えたのです。今から思えばいかにも非科学
的な幼稚な考え方です。追っぽり出した死者・死靈を、然しそまつにあつ
かうとタリヤがあるかも知れないということで、て
代・奥津城)として構築されたのがその当時の墓
です。大きな岩室を造るのもそういう意味です。
いかにも原始的な幼稚な考からつくられる墓です
が、しかし二十世紀の今日においてもこのような墓
をつくつたり考えたりしている宗教や人たちがいま
す。少くとも私たちには、死んだからといつて、「穢れ」
たものとして、捨てたり閉じこめたりするような
ことはじたくありません。

第二番目の墓は、仏教の墓です。佛教では墓のことをストーピーと言います。漢字
では卒都婆と書いています。日本ではそれを簡
略化して都婆とか、また単に「塔」とよんでいるので
す。五重の塔・七重の塔といつてあるのが本来佛教

の墓なのです。
お祇迦さまが亡くなると、お祇迦さまをした
ついた國々の王などによつて遺骨は分配され
て各地に十の記念塔が建てられたのがそのはじめ
です。やがてその塔には、とくに僧ではない在家菩薩
(日常生活をしながら仏道を求める人たち)が集ま
り、各地にその仲間をつくつていきました。そうした人々
のなかからわたしたちの「大乗佛教」が生れて
きたのでした。

ですから佛教のストーパというものは、ほとけさまの教えが中心に、みんなが「出会いの場所」です。お念佛のなかで亡き人も生きている者も出会え、お念佛のなかで亡き人を縁ぬして有縁のものが相い会う場所、生き人を縁ぬして有縁のものが相い会う記念碑。それが佛教の墓です。



便婦

五月五日、兵庫教区の第八回仏教社
年連盟総会が、姫路市の文化センター
で盛大に開催されました。当
日は、午前十時半からの式典勤行
にひきつけ、出石組仏社連盟の山西
茂之氏を議長にして新年度の事業計画
などが協議されました。

昼食時、地元仏社・仏婦の方々によ
る播州音頭ぞの他のにぎやかなアトラ
クションを見せてもらいました。午後からは、阪急ブレーブスの球団
代表であつた大阪万福寺の住職渕間秀
典師から、「仏教と現代社会」と題し
てきわめてユニークな感銘ぶかい講話
を一時間にわたつて拝聴したのち、仏
社メンバーによるバネルデスカッショ
ンを行なつて三時半すぎ研修を終りました。

大會

勝林寺仏社からは、亀井孝会長、平
野稔副会長・中島喜久雄・横山弘三の平
各氏と住職とが参加しました。

「同朋読本」出る

兵庫教区はかねてからすゝめている「連研」(門徒推進者連続研修)のテキストとして「連研読本」を編集使用しておりますが、内部の仏社・仏婦の研修会はもちろん、全国各地より注文があり、この種の本としてはめずらしい部数を売りました。

その「連研読本」の姉妹編として、約二年

がかりで編集した「同朋読本」(同朋・同和

エイジシヨ)」という字をきざむことをおすすめ

ます。

いよいよ六月五日・六日にせまつた
「研修旅行」には、目下四十五名の仏
社・仏婦会員が参加する予定。
まだ多少の申込みがあるのですが、これか
らの申込みも役員は期待している。
六月五日
出合発(六時半)→矢根(六時半)→
出石勝林寺発(六時半)→暮坂セ時↓
朝来山(ヘ時)勝央(一時)→昼食弁当
↓三次→尾道(ホテル金花園一時着)
六月六日
旅館発(二時半)→三原港→(高速艇)→耕三寺
参拝→昼食(富士食堂)→三原港(二時半)
尾道・三次→勝央(一時半)→出石(二時半)
↓出合(二時半)



五月五日、兵庫教区連合仏婦が主催する、今年度
の念仏奉仕団(納骨)は、五月二十
日で参加申込みを一応締切つたが、外各方面からいろいろな反響をよんでいます。
勝林寺住職もこの両読本の編集に参画さ
れていただいています。(各一千円です)

一日 豊岡教堂説教
二日 出石組教化推進協議会
三日 出石町戦没者追悼法要
四日 佛社・仏婦合同研修旅行
五日 連研講師研修会(神戸)・出石組住
六日 本覚寺前坊守様忌明法要
七日 横山豊氏宅法事
八日 真覚寺永代経
九日 念仏奉仕団
一〇日 本覚寺前坊守様忌明法要
一一日 連研講師研修会(神戸)・出石組住
一二日 念仏奉仕団
一三日 本覚寺前坊守様忌明法要
一四日 湯口勇雄氏宅
一五日 忌明法要